

45. 鹿児島県 (Kagoshima Pref.)

作成者: 福田晴夫¹⁾; 協力者: 二町一成

作成日付: 2003年3月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
EN	ソ, ツ	E	オオウラギンヒョウモン	吉松町	-	大口市, 野田町, 川内市, 串木野市, 東市来町, 伊集院町, 鹿児島市, 山川町, 国分市, 福山町, 鹿屋市, 志布志町, 有明町, 大隅町など	1950年代から1970年代までは、各地に少なくはなかったが、1980年代から激減、消滅したところが多い	多様性に富む草原が減少した。営農形態の変化による草刈りや野焼きの変化、放置による荒廃、遷移等による質的变化、さらに開発による面積の減少がある	福田晴夫(1997) Butterflies(16, 17)に詳記。分布南限
EN	ソ, ツ	E	ル - ミスジミ	屋久島(屋久町)	-	大口市, 紫尾山(出水市, 宮之城町), 栗野町	1960年代までは、県本土数ヶ所に記録が散在するが、1970年代以降は発見例がない	食樹イチイガシなどを含む照葉樹林の伐採	分布南限
EN	ク	E	ウスイロオナガシジミ	栗野町(九州唯一の産地)	-	-	1950～60年代は多産したが、次第に減少し、1990年代には激減、絶滅寸前の状況にある	カシワ林の老齢化と面積の減少、牧場の廃止、観光地化、公園化を伴う各種建造物の設置、道路工事、他樹種の植樹など	栗野町は1995年に町有地の全昆虫類の採集禁止条例を出した。分布南限
EN	ク	E	ヒサマツミドリシジミ	霧島山(? 霧島町)	-	-	1960年代までは霧島山高千穂峰山頂に多数の飛来が見られたが、1975年前後の照葉樹林の伐採後は激減	山麓部照葉樹林の伐採	分布南限
EN	ク	E	ハヤシミドリシジミ	ない	-	栗野町	栗野岳のカシワ林に1970年まで記録がみられる。その後エゾミドリシジミが入れ替わるよう出現した。高千穂峰山頂でも1961年に1頭が採れているが、発生地は不明	カシワ林の老齢化、雑木林化と面積の減少	分布南限
EN	ソ	R	シルビアシジミ(本土亜種)	山川町, 開聞町, 高山町	-	鹿児島市, 指宿市, 知覧町, 枕崎市, 志布志町, 有明町, 鹿屋市, 根占町, 高山町, 佐多町など	1940年代から1960年代までは、大隅・薩摩半島部に広く生息していたが、1970年代から激減した	不明である。草原の管理方法の変化(草刈り、芝生造成、火入れなど)による可能性がある	分布南限
EN	ソ, ツ	R	タイワンツバメシジミ	川内市, 串木野市, 坊津町, 笠沙町, 佐多町	-	栗野町, 鹿屋市, 志布志町, 鹿児島市など	1938年から1970年代までは各地にかなり広く生息していたが、1980年代から減少傾向が顕著になった	多産していた時代には、諸工事や森林伐採で食草シバハギが多かったが、その後産地の管理法や草刈り法が変わり、激減した。とくに、7月ごろの草刈りにより、秋につばみを付けられないことが大きい	-
VU	タ, テ	R	オナガアゲハ	大口市, 霧島山(栗野町, 牧園町, 霧島町), 始良町, 蒲生町	-	ない?	1960年代までは鹿児島市での記録も散見されたが、以後は市北部を除いて見られなくなった。他の産地でも減少傾向がある	森林伐採による食樹コクサギの減少が大きいと見られる。人里のミカン、カラタチの栽培減も関係しているらしい	分布南限
VU	タ, テ	V	ジャノメチョウ	大口市, 出水市(北部), 吉松町, 栗野町, 牧園町, 霧島町	-	鹿児島市, 千貫平(喜入町, 穎娃町), 垂水市, 紫尾山(出水市, 宮之城町)	千貫平は1960年代までは多産したが、近年は発見できない。消滅した年代は不明である	長年維持されてきた草原の減少、草刈り法の変化による草原の変質	分布南限
VU	タ, テ	V	コツバメ	霧島山(牧園町, 霧島町), 紫尾山(出水市), 高隈山(垂水市, 鹿屋市), 田代町	-	日吉町?	霧島山などの高地個体群はあまり変化ないが、山麓部や低地個体群は減少傾向が著しい	食樹アセビの減少によると見られる。これは森林伐採のほか、栽培用としての採取も大々的に行われ、野生株は少ない。現在は人家の栽培株に依存している地域もある	分布南限
VU	タ, テ	V	クロシジミ	ない?	-	栗野町?	霧島山北麓(吉松町, 栗野町), 高隈山山麓(垂水市, 鹿屋市), 佐多町にしか産地はない。このうち栗野町, 鹿屋市の生息地は1990年代には激減している	生息地が耕作地、草原、松林など変遷の激しい環境で、アブラムシ, キジラミとクロオオアリの消長が激しいことが関係しているらしい	分布南限
NT	チ, ト	V	ウラギンシジミヒョウモン	千貫平(喜入町, 知覧町)	-	川内市?, 加世田市?	薩摩半島の千貫平は1950年代から多産地として知られていたが、1980年代から公園化が進み、消滅寸前になっている。川内市など近年は発見されないところが多い	草原の管理方法の変化、草地の減少	分布南限
NT	チ, ト	E	メスグロヒョウモン	横川町, 溝辺町, 知覧町, 川辺町	-	鹿児島市?	鹿児島市では1930年代までは普通種、戦後の記録は少なく、1970年代以降の記録はない。同様な傾向は各地の平地にみられる	食草(スミレ, ツボスミレ), 吸蜜植物, 越夏場所, 産卵対象木などのセットになった環境の減少が考えられる	分布南限
NT	チ, ト	V	ウラギンヒョウモン	霧島山(栗野町, 牧園町, 霧島町)	-	鹿児島市, 志布志町, 有明町, 佐多町など?	種子島では1930年代に記録があるのみ。大隅半島では1970年代以降の記録はない。各地とも1980年代以降の記録は激減した	草原の管理方法の変化、減少と見られるが、詳細不明。温暖化?	分布南限
NT	チ, ト	V	サカハチチョウ	大口市, 霧島山(栗野町, 牧園町, 霧島町), 高隈山(鹿屋市)	-	串木野市?, 桜島(詳細な地名不詳: 鹿児島市または桜島町)	桜島の記録は1944年。県本土各地に記録は散在するが、多産地は少なく、減少傾向にある	食草コアカソは少なくないが、生息地としての溪流沿いの樹林が減少している	分布南限
NT	チ, ト	V	コノハチョウ	沖永良部島(知名町)	-	ない	1982年頃から沖永良部島に定着し、個体数も多かった。近年は発生面積が減少したが、またかなりの発生がみられる	食草オキナワズムシソウの自生地が、ダム工事などでやや減少した	分布北限
NT	チ, ト	V	アカボシゴマダラ	喜界島(喜界町), 奄美大島(名瀬市, 大和村, 住用村, 宇検村, 瀬戸内町), 徳之島(徳之島町, 天城町, 伊仙町)	-	ない	人里を中心に生息しており、個体数はまだ少ないが、奄美大島では漸減傾向が見られる	食樹クワノハエノキ(リュウキュウエノキ)の無意識的伐採による減少	分布北限

45. 鹿児島県 (Kagoshima Pref.)

作成者: 福田晴夫¹⁾; 協力者: 二町一成

作成日付: 2003年3月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
NT	チ,ト	E	オオムラサキ	大口市?	-	ない	県北部の大口市と出水市にしか産地はない。大口市では1950年代の生息地が次第に狭まって、現在は北部樹林の一部にしか見られない。出水市の記録はさらに少ない	食樹工ノキの自生する照葉樹林の伐採による	分布南限
NT	チ,ト	R	ミズイロオナガシジミ	栗野町	-	佐多町?、内之浦町?	県本土の東半分、すなわち霧島山麓から大隅半島にかけて記録地が散在する。しかし、多くの地で個体数は少なく、近年は発見できない所が多い	クヌギ林の伐採、植栽が不規則、不安定なことが関係しているが、決定的な要因は未詳。温暖化?	分布南限
NT	チ,ト	V	キリシマミドリシジミ	霧島山(栗野町, 牧園町, 霧島町), 大口市, 紫尾山(出水市, 宮之城町), 屋久島(屋久町, 上屋久町)	-	ない?	1970年代に生息地が狭められた所が多い。山頂部にアカガシ帯が残っている国見山(栗野町), 烏帽子岳(溝辺町・蒲生町), 長尾山(溝辺町)の個体群は消滅の危険性が高い	照葉樹林の伐採。他種(マテバシイ)との競合によるアカガシの老木の衰退(入来町八重山)	分布南限
NT	チ,ト	E	カラスシジミ	大口市, 菱刈町, 国分市, 東市来町, 鹿屋市, 高山町	-	ない?	1950~1970年代に多くの産地が発見されたが、近年は各地とも漸減傾向にある	河川流域に多い食樹ハルニレの伐採や流失による減少。温暖化?	分布南限
NT	チ,ト	R	トラフシジミ	霧島山麓部(牧園町, 霧島町), 高隈山麓(垂水市, 鹿屋市)	-	ない?	1960年代から今日まで、県本土各地で散発的な記録があるが、1970年代から多産地、安定した産地が減少した	主要な食樹とみられるウツギが減少している可能性がある	分布南限
NT	チ,ト	R	イワカワシジミ	奄美大島(名瀬市, 大和村, 住用村, 宇検村, 瀬戸内町), 徳之島(徳之島町, 天城町, 伊仙町)	-	ない	奄美大島では、1950, 1960年代に比べると、漸減傾向にあり、庭に植えられた食樹により発生が支えられている地域もある	食樹クチナシの伐採による減少。無意識的に他樹種と同時に伐採されることが多い	分布北限
NT	チ,ト	E	クロツバメシジミ	獅子島(東町), 上甌島(里村, 上甌島)	-	ない?	最初の発見が1980年代で、その後現在までの顕著な減少傾向は知られていないが、それ以前の状態と比べると生息地が狭まっている傾向が続いている	食草群落の諸工事による減少	分布南限
NT	チ,ト	E	スギタニルシジミ	大口市, 出水市, 栗野町, 鹿屋市, 志布志町, 高山町など	-	始良町?	霧島山麓部では1970年代初期の道路工事による食樹伐採で激減した。同様な傾向は各地の産地で見られる	溪流沿いの樹林の伐採で、食樹キハダ, ミズキが減少した	分布南限
NT	チ,ト	R	ミヤマセセリ	大口市, 出水市, 栗野町, 横川町, 牧園町, 始良町など	-	鹿児島市, 川内市, 東市来町, 日吉町, 金峰町, 大根占町, 内之浦町など	霧島山の高地から各地の低山地に記録が散在するが、現時点では再チェックを要する地域、消滅した地域が多い。全体的に1970年代から減少傾向にある	諸開発と営農形態の変化による、生息地であるコナラ自生地の減少と、クヌギ林(植栽)の不規則な変動	分布南限
NT	チ,ト	R	ギンイチモンジセセリ	大口市, 菱刈町, 栗野町	-	鹿児島市? 志布志町?	始良郡や志布志町などでは1970年代に多かったが、前後の記録は少ない。多くの地域で個体数の変動が大きく、不安定である。全体的には1980年代から衰退傾向	丈の高い草地の減少。公園化、宅地化による荒地地帯の草地の減少が関係していると見られるが、多角的な検討が必要である	分布南限
DD	ネ	E	オオウラギンシジモウモン	ない?	-	ない?	1963年以前は霧島山と紫尾山でしか知られていなかったが、1970年代から各地で記録が増えた。この原因はチョウの増加でなく、調査の進捗によるものと見られる。しかし、個体数は少なく、危機的状況	草原の変貌であるが、不詳	分布南限
DD	ネ	E	クモガタヒョウモン	霧島山(栗野町, 牧園町, 霧島町), 国見山(栗野町, 薩摩町)	-	八重山(入来町), 伊集院町	1930~1940年代は八重山や伊集院町にも生息していた。1980年代までは紫尾山や川内市などにも記録があった	生息地の条件などが未詳で、不明	分布南限
DD	ネ	E	シ-タテハ	ない	-	ない?	霧島山(霧島町), 国分市, 志布志町に記録がある。いずれの産地も近年の発見例を欠く	食樹ハルニレ群落の伐採による減少らしい	分布南限
DD	ネ	V	ヒオドシチョウ	大口市, 霧島山(栗野町, 牧園町, 霧島町), 紫尾山(出水市, 宮之城町)	-	ない?	県北部のほか、薩摩半島に記録が散在するが、年変動が大きく、定着地がはっきりしない。大隅半島には記録なし。記録地や個体数の増減が分かりにくい	不明	分布南限
DD	ネ	E	アイノミドリシジミ	ない	-	霧島山(栗野町)? 紫尾山(出水市, 宮之城町)?	霧島山は1958年の1, 紫尾山は1957年, 1964年, 1966年の計3のみ。その後の調査では発見できない	照葉樹林の伐採か?	分布南限
DD	ネ	E	ヒメイチモンジセセリ	ない	-	奄美諸島の全市町村?	奄美諸島では1957年に初記録、1960年代までは記録が多かったが、その後減少し、現在は見られない。消滅か?	発生源となっていた水田地帯の減少が原因と思われる	分布北限

1) 〒890-0024 鹿児島県鹿児島市明和4-5-32

「鹿児島県版レッドデータブック(動物編)」(2003年3月発行)に出したものと同一内容にした。詳細な解説、文献などは同書を参照されたい。鹿児島県は分布南限種が多く、人為的あるいは自然的環境変化で減少、消滅する傾向が強いと予想される。したがって、少しでも疑いのあるものはリストに含めてある